今日の話題

「国連2023水会議」ニューヨークで開催
～世界の水問題解決を目指して～

グローバルウォータ・ジャパン　代表　吉村　和就
（国連テクニカルアドバイザー）

吉村　和就　氏

国連２０２３水会議（UN 2023 Water Conference）が２０２３年３月22～24日までニューヨークの国連本部で大規模に開催された。水問題に特化した国連水会議は１９７７年アルゼンチンのマル・デラ・プラタ会議以来46年ぶりである。会議は国連加盟国から約１７０カ国の国家元首や閣僚、政府代表、科学者、学者、市民社会グループ、民間グループ、ユースの代表および地域・ＮＧＯなどが参加した。

会議は公式声明を述べる本会議と５つのテーマ別会議（双方向対話）、４つの特別イベント、さらに国連内部で開催される２００を超えるサイドイベントなどで構成され、①衛生に関する水問題、②持続可能な開発に関する水、③気候変動・強靭性・環境に関する水、④協力に関する水、⑤水の国際行動の10年、を軸に展開討議された。その成果は最終日、国連総会議長のサマリーレポートでまとめられた。

会議への事前登録参加者数は約７０００人。（ＵＮ事務局調べ）

１．開会式

アントニオ・グテーレス国連事務総長、今回の議長国を共同で務めるオランダのウィレム・アレクサンダー国王陛下、タジキスタンのエモマリ・ラフモン大統領が出席しスピーチ。グテーレス国連事務総長は「人類にとって最も重要な資源である水が、世界の持続可能性にとり、また平和と国際協力を促進するツールとして極めて重要である」ことを強調。この会議は「国連加盟国と国際社会の水に関する認識と、それに基づく行動の飛躍的な進歩を示すものになる、今こそが『『水行動アジェンダ（Water Action Agenda）』を実現し、水のコミットメントをもたらすゲームチェンジの瞬間となる」と水会議開催の意義を述べた。

国連2023水会議開幕

筆者撮影

２．水と災害に関する特別会合…天皇陛下が基調講演

本会議に先立ち21日に開催された第６回「国連・水と災害に関する特別会合」では国連のチャバ・

水道公論2307今日の話題.indd　1　2023/6/13 火　9:07:

コロシ総会議長とグテーレス国連事務総長らの挨拶の後、天皇陛下がビデオで「巡る水、水循環と社会の発展を考える」をテーマに英語で基調講演された。陛下は翌日から国連の掲げるSDGsの達成に向けた議論がなされるという観点から「水循環を通じた、社会の発展と水の防災・気候変動との関連」を取り上げられた。（講演ビデオは宮内庁のホームページに掲載されている、約21分間）

挨拶するアントニオ・グテーレス国連事務総長

3．本会議で日本を代表し上川陽子・首相特使が演説

日本の首相特使を務める上川陽子衆議院議員（超党派・水制度改革議員連盟代表）が本会議で演説。日本が取り組んでいる「熊本イニシアティブ」を通じた貢献策として、流域治水に関連した気象予測と水インフラ管理の連携、衛星データの高度利用、質の高い水道施設・下水道施設の整備や、健全な水循環の維持・回復に向けた理念と取組みなど、日本の創意工夫で得られた知識と経験の共有を通じ、日本は国際貢献を積極的に図っていく考えを表明した。

上川議員はクロージングセレモニーでも本会議場で登壇、ハーバード大学ケネディ・スクール留学の経験を活かし、流ちょうな英語で日本の貢献策をPRした。

閉会式でテーマ別会合の共同議長（エジプト水資源大臣）に続き会合の成果を述べる上川陽子総理特使

4．気候・強靭性・環境に関するテーマ別会合…日本が共同議長

プログラムのテーマ別討議「気候・強靭性・環境に関する水」では、エジプトと日本が共同議長となり、共同議長として挨拶した上川議員は、エジプトと日本の気候の差を引き合いに出しつつ、気候変動による洪水と干ばつの両極端化に言及し、世界で起こっている共通課題の解決に向けてグローバルに適応できる効果的な枠組みの議論を呼びかけた。日本水フォーラムの朝山由美子チーフマネージャーは「アジア・太平洋水フォーラム」を代表し、第四回アジア太平洋水サミットの成果である「熊本宣言」の内容を紹介した。（詳細は日本水フォーラムのHPをご覧ください）

5．サイドイベントで…熊本水サミットの成果を発信

22日には日本水フォーラム主催のサイドイベントが国連本部内で開催され「進むべき道、アジア太平洋地域における強靭で持続可能な包括的な水」をテーマにパネルディスカッションが開始され、冒頭昨年の「第四回アジア太平洋水サミット」の開催地である、熊本市の大西一史市長が挨拶、「持続可能な発展のための水　～実践と継承～」とのテーマに触れ、多様なステークホルダーとの連携、また次世代の担い手であるユースの参加の重要性を語った。

6．ユースセッション…持続可能な水管理のための世代間パートナーシップ構築

ユース活動を行っている国際機関や政府、国際NGOなど、世代を超えて水問題を解決するためのユース世代の有意義な参画について協議する場で、日本水フォーラム、水の安全保障戦略機構、アジア開発銀行（ADB）、国際協力機構（JICA）、コム・アクア、熊

水道公論2307今日の話題.indd　2　2023/6/13 火

本市などで共催され、本年2月に日本で開催された「水未来会議、世代を超えて考える水問題の未来」会議で選抜され派遣された熊本の高校生が、自ら作成した動画を放映し、水の未来へのメッセージを述べた。会場は立ち見がでるほど盛況であった。

7．国連加盟国による水行動アジェンダへのコミットメント

今回の大規模な水会議では、SDGsに関する多くの討議が展開され、各国政府、国際機関、NGOなどの利害関係者から多くの声明が発表されたが、実践するためのファイナンスの確保が大きな課題として残された。

各国の実践に対するコミットメント（公約に近い約束）の一部を紹介する。

・米国は気候変動に強いインフラサービス構築に、最大490億米ドルを投資し、かつ世界水戦略で22カ国を支援するために7億米ドルを拠出する。

・オーストラリアは、アボリジニへの水の権利を増やすために、水インフラに1億5000万米ドルを投資する。

・デンマークはアフリカにおける越境水管理と開発の強化に、4億米ドルを提供する。

・日本は「熊本イニシアティブ」に基づき38億米ドル（約5000億円）を拠出する。

地下水　特別会合に参加

筆者撮影

8．閉会式

加盟国から、国連の議題に水関連を増やすように頻繁に呼びかけられた要請に対し、グテーレス国連事務総長は「国連水特使」を任命することを発表し「水行動計画の最終年2028年」までの包括レビューを実施することになった。

グテーレス国連事務総長は「この会議は、人類の最も貴重な地球共通の利益として、水は私たち全員を結び付け、多くの地球規模の課題にまたがるという真実を示しました、だからこそ水は世界的な政治的議題の中心にある必要があります」と述べ、参加者全員への感謝の謝意と「水の安全な未来への旅に向けて、次のステップを踏み出しましょう。」と呼びかけ閉幕した。

さいごに

今回の国連水会議は、約170カ国、参加者7千人など、かつて無い程の盛り上がりを見せ成功裏に終わった。国連の会議は、ともすれば声明だけで終わり、NATO（No Action Talk Only）と揶揄（やゆ）されるが、今回は各国の拠出金額まで明らかになった。（もちろん不十分であるが）国連本部勤務の経験のある筆者にとり、いままでの国連での日本政府発表は、ともすれば外交官による原稿の棒読みが多かったのに比べ、首相特使としての上川議員や、熊本市の大西市長のスピーチは、自ら水問題に取り組んできた実績を背景に力強く演説し、聴衆に大きな感動を与えた、日本人として誇れる水会議であったと思っている。今回の成果は9月に行われる「国連SDGs特別セッション」に上程される予定である、

東京大学の沖大幹教授と高校生グループ

水道公論2307今日の話題.indd　3　2023/6/13 火　9:07: